

「皆さまのご芳志をウクライナ大使館にお届けしました」



ロシアによるウクライナ侵攻から1年、ウクライナの人々のご苦労は終わりが見えない状況が続いています。

日本糖尿病協会(日糖協)では、ウクライナで困難な生活を強いられている糖尿病の方々を支援するため、2022年7月から募金活動を進めてきました。この活動は新聞でも取り上げられ、注目を集めたことから、23年1月までに54人の皆さまから92万6210円のご芳志をいただくことができました。お気持ちをお寄せいただきました皆さまに、こころよりお礼を申し上げます。

この寄付金に、日糖協から10万円を加えた総額102万6210円を在日ウクライナ大使館を通じて、ウクライナ糖尿病連合(Ukrainian Diabetes Federation)に寄付することになりましたので、ご報告いたします。

2月17日、今回の募金活動で積極的な呼びかけを行った八幡和明理事(長岡中央総合病院)が、清野裕理事長の代理として東京都内にあるウクライナ大使館を訪問し、外交官のインナ・イリナさんに寄付目録を手渡しました。

八幡理事は、日糖協としてウクライナの人々にこころを寄せ続けていること、一日も早く、市民の皆さんが平和な毎日を取り戻すことを願っているとお伝えしました。イリナさんは、「日本の皆さんの温かいご支援は、本当にわたしたちを勇気づけます。医薬品の輸入が困難になっているので、糖尿病などの疾患をもつ人は苦勞しています。ウクライナ国内は、どこにいても安全でない状況が続きますが、平和を取り戻すまでがんばります」と謝意を示されました。

改めて、このたびの募金活動にご協力くださった皆さまに感謝申し上げます。

